

子どもの読書意欲を高める学習活動の工夫  
～ 子どもによる『図書サイト(データベース)』の作成と活用を通して ～

気仙沼市立白山小学校 熊谷 亨

### 概要

本研究は、児童自身がIT機器を用いて作成した『図書サイト(データベース)』を活用することにより、読みたい本を見つけたり、友達や下級生に薦めたい本について情報を発信したりしながら、児童自身の読書活動を振り返らせ、様々な本に対する興味関心の高揚や読書意欲の喚起、国語科を中心とした各教科・領域での学習資料としての効果的な活用を促すことを目的としたものである。

#### 1 読書活動に関する現状と課題

今、私たちの身の回りには本があふれている。その一方で、読書の価値を見出せず、読書は「めんどくさい。」「つまらない。」とだけ感じる人が増え、活字離れの進行も問題視されている。

そうした中、本の効能、言い換えれば読書をすることのよさが改めて強調されてきている。

読書活動は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条 基本理念)である。本から得られる様々な知識や間接体験は、私たちの心や精神を豊かなものしてくれたり、価値判断や行動の基準づくりに役だったりもする。また、読書は基礎的な学力の底力を培うとも言われている。こうした読書のよさを、教科指導や学校生活、家庭生活全般を通して、子どもの頃から味わわせ、読書を習慣化させたいと考える。

本校においても、週1回ではあるが全校一斉の形で15分間の「朝の読書」に取り組んでいる。しかし、児童の間では、「読書に興味をもてず、本を用意できない」「自分の興味のある種類の本しか読もうとしない」等の姿が見られる。昼休みや放課後の本の借用の様子についても、週に2、3冊借りて読む児童から、自分からはほとんど本を借りようとしていない児童まで、一人一人の読書量に開きがあると言える。普段あまり本を読もうとしない児童は、「読むのがめんどくさい。」「つまらない。」「読んでも内容が分からない。」「他の遊びが好き。」等を理由として挙げ、読書をすることのよさに気づかず、読書を通じて様々な文章表現や知識、感動を得られるということに実感が無いという状況にある。

そこで、学校生活の中で、少しでも読書に興味を持てるような手立てや読書をすることによって「楽しかった」「よかった」「身についた」「役に立った」という経験が必要であると考えた。

#### 2 課題解決に向けて

以上のような現状を踏まえ、図書室にある本のよさを、読んだ児童本人から全校の友達に紹介したり、様々な本について感想や意見を交流し合ったりすることのできるようなサイト(データベース)の構築を考えた。そして、そのサイトの活用を通して友達や下級生に薦めたい本をまとめたり、情報発信したりしながら児童自身の読書活動を振り返らせ、様々な本に対する興味関心の高揚や読書意欲の喚起を促していきたい。

##### 1) 本サイトの概要(機能)

友達や下級生に、自分の読んだ本の感想を伝えたり、紹介をしたりすることができる。

感想文や紹介文だけでなく、本の表紙の写真を掲載したり、印象的な場面の絵や登場人物の絵、感想画等を描いて貼り付けたりすることができる。

本の内容に関するクイズや紙芝居、音読(音声)、新聞、劇(動画)等も貼り付けることができる。

児童自身が作成した様々な本のデータを、学校内のPCから手軽に、分類別に検索したり、閲覧したりすることができる。

友達の感想文や紹介文に対して、意見を書き加えたり、情報を交換したりすることができる。

蓄積されたデータが、各教科の学習資料等として活用することができる。

サイト(データベース)に、適時情報を書き足したり、更新したりすることができる。

## 2) 本サイトを活用するメリット

読書に興味をもてない児童にとっては、「友達や上級生から紹介された本」ということで、安心して本の内容に目を向けやすい。

サイト(データベース)から情報を得ることにより、「朝の読書」や普段の読書活動等の場面において読書の範囲を広げたり、さらなる読書意欲を高めたりすることができる。

友達から本についての様々な情報を集めたり、サイト(データベース)を見た児童から感想や意見等の反応を得たりすることで、読書活動の一層の活発化を図ることができる。

一冊の本についてのデータを、PCの各種ソフトと周辺機器を使って、文書作成や画像、音声等の貼り付けをしたり、手がきの文章や絵を取り込んで貼り付けたりする等、一人一人の児童のIT活用技能の実態や意図、嗜好に応じ、多様且つきれいに表すことができる。

国語科での物語や伝記についての本の紹介、読書発表会等において、検索した情報や追加書き込みをしたデータを紙に拡大印刷をして掲示資料としたり、PCや液晶プロジェクター等を使ってプレゼンテーションをしたりすることができ、学習資料として様々な形で活用することができる。

## 3 各学習場面での実践

### 1) 国語科の学習での活用

#### ・ 「読書の窓」での活用

教科書で紹介されている物語等の本について調べるとともに、その本を読んだ後の感想を書く。

#### ・ 伝記を読んだ後での活用

教科書で取り上げられている人物の伝記やそれ以外の人物の伝記について検索する。また、各偉人について新たに分かったことや紹介文、伝記の内容等を記入する。

#### ・ 作家についての調べ学習での活用

例えば、「宮澤賢治」の各作品の題名や主な内容について検索したり、読んだ後の感想を記入したりする。

### 2) 日常生活の中での活用

#### ・ 「朝の読書」での活用

「朝の読書」の際に読んだ本の紹介や感想、作家の紹介、その他の内容や情報(絵、写真、動画、クイズ、新聞、紙芝居等)を『図書データシート』(図書サイトのシート)にかき込み、累積する。

#### ・ 図書館における本借用での活用

借用の手がかりとするために、どんな本があるのか情報検索をする。また、読み終えた本の感想文や感想画、クイズ等を『図書サイト(データベース)』に書き足す。さらに、児童の読書意欲が一層高まるよう、サイトの中に「先生が薦める本」や「さんのお薦めの本」を紹介するコーナー等も設ける。

### 3) 委員会活動(図書委員会)での活用

#### ・ 「新刊図書の紹介」での活用

委員会活動の時間や休み時間、放課後の時間等を使って『図書サイト(データベース)』に「新刊図書の紹介」を書き込み、皆に情報を発信する。

#### ・ 「図書委員会からのお知らせ」での活用

「今週(今月)お薦めの本の紹介」や「作者紹介」「教科書に載っている物語紹介」等を行う際に、『図書サイト(データベース)』から、必要な情報を検索し、皆に発信する。

#### ・ 委員会主催の児童朝会等での活用

児童朝会等で児童の読書意欲の向上をねらいとした本についてのクイズやゲーム的な活動を行う際に、『図書サイト(データベース)』の情報を活用する。IT機器を使ったクイズやゲーム的な活動も工夫して行い、それらの活動に使った資料や活動の様子画像等も『図書サイト(データベース)』に累積し、情報の拡大及び内容の充実を図る。

4 指導計画

第6学年 国語科学習指導案

4.1 単元名 「作家と作品をかかわらせて読もう ～ 宮沢賢治 ～」(10月)

4.2 単元の目標

- 1) 作品とかかわらせながら，人物の行動や考え方・生き方を読みとる。
- 2) 読書計画を立てて同じ作家の作品を読み広げる。

4.3 指導にあたって

本単元は，5，6年指導要領「2 内容」の「A『話すこと・聞くこと』(1)ア」「B『書くこと』(1)ア，イ，エ」「C『読むこと』(1)ア，イ，エ」を受け，宮沢賢治の生涯について読み取るとともに，作家と作品のかかわりについて自分の考えをまとめ，紹介し合うことを主なねらいとしている。

児童は，1学期に「自分の考えや意図が伝わる工夫をして話す」学習や「物語の流れを捉え，最も強く語りかけてきたこと(主題，作者の)を自分の言葉でまとめる」学習，「目的や意図に応じた表現を使って文章を書く」学習をしている。

本単元では既習事項を生かしながら，児童が興味をもって作家と作品のかかわりについて自分の考えをまとめて分かりやすく紹介し合うことができるよう，IT機器を活用した読書発表会を設定することとした。

本単元におけるIT機器活用のメリットを以下のように押さえ，効果的に用いていきたい。

視覚的效果に訴えながら友達や下級生に自分の読んだ本の感想を伝えたり，紹介をしたりすることができる。

一冊の本についてのデータを，あらすじの文や紹介文等の文書作成や本の表紙写真の貼り付けをしたり，手がきの文章や絵を取り込んで貼り付けたりする等，一人一人の子どものIT活用技能の実態や意図，嗜好に応じ，多様且つきれいに表すことができる。

児童自身が作成した様々な本のデータを，学校内のコンピュータから手軽に，分類別に検索したり，閲覧したりすることができる。

蓄積したデータを，次年度以降の国語の学習資料として保存，活用することができる。

読書発表会において，検索した情報や追加書き込みをしたデータを紙に拡大印刷をして掲示資料としたり，コンピュータや液晶プロジェクター等を使ってプレゼンテーションをしたりする等，発表資料として様々な形で活用することができる。

4.4 指導計画(10時間) (< IT活用のねらい IT活用場面 >)

目標および学習活動	時数	評価の観点
・教材文を通読し，学習の見通しを持つ。	1	【関】 宮沢賢治や他の作品を進んで読み，作家と作品のかかわりについて考えようとしているか。
・賢治の行動や考え方，生き方などから作者がとらえた賢治の人物像を読みとり，賢治の願いや理想について話し合う。	3	【話聞】 自分の意見や感想を明確にして，分かりやすく話しているか。
・作家の生き方と作品のかかわりについて考えながら，賢治の作品を読む。	3	【書】 読んだ作品の感想や，作品と作家のかかわり等をまとめて「図書データシート(作品用シート)」に書いているか。
・読んだ作品を紹介する「図書データシート(作品用シート)」を作り，発表の練習をする。 <u>&lt; 表現力育成 PCを活用した資料作成と発表練習 &gt;</u>	2 {本時 1/2}	【読】 叙述に即して作家の考え方や生き方を読みとっているか。
・「図書データシート(作品用シート)」を使って「宮沢作品感想発表会」を開き，感想を伝え合う。 <u>&lt; 表現力育成，相互評価 プレゼンによる発表会 &gt;</u>	1	

4.5 本時の指導（8 / 10時）

1) ねらい


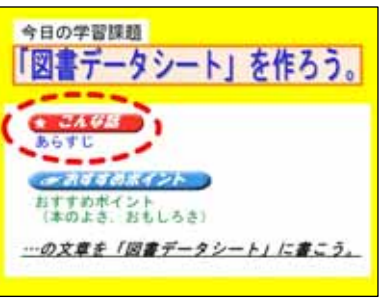
- ・ 宮沢賢治の作品について，自分が発表したい内容の文章の構想を立てることができる。
- ・ 見る人にとって分かりやすい宮沢賢治に関するデータシートを作成することができる。

2) 準備物

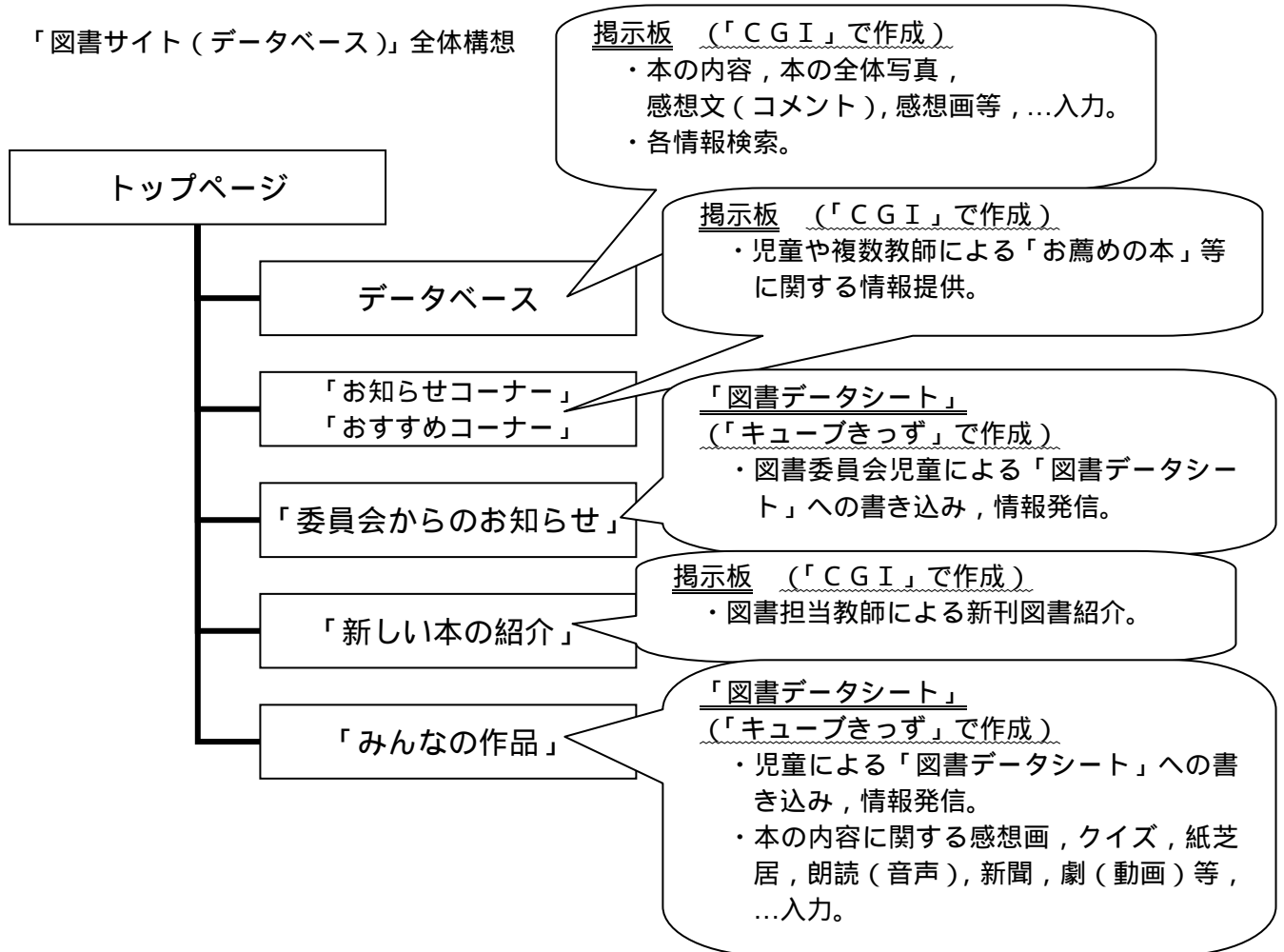
- ・ 教師：コンピュータ，液晶プロジェクター，スクリーン，e - 黒板
- ・ 児童：ワークシート，コンピュータ

3) 学習過程

（ < IT活用のねらい IT活用場面 > ）

段階	学 習 活 動	・指導上の留意点 評価 評価方法 支援
導入 7分	<p>1 「図書データシート(作品用シート)」に取り上げる宮沢賢治作品の感想等の文章の組み立てや内容を確認し，決定する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の発表や「図書データシート」の参考作品の提示を通して，前時までに考えた「作品のあらすじ」や「おすすめポイント(作品のよさやおもしろさ)」や「賢治と作品とのかかわり(作品の中に表れる賢治の生き方や理想)」等，取り上げる項目それぞれの文の組み立てや表現の効果等について確認，検討させる。</li> <li>・ 前時までに各自ワークシートに記入した各項目の文章の組み立てや内容に関して，見直しや修正をさせる。 例文を入力したシートと白地で項目名だけのシートの2種類の「図書データシート(作品用シート)」の書式を示し，児童それぞれの意図や考え，嗜好に応じて選択することができるようにする。</li> <li>・ 見やすく，分かりやすいシートにするために，箇条書きやキーワードを使って表す方法も紹介する。</li> <li>・ 文の内容がまとまらない児童や効果的に伝えるための書き方等について考えつかない児童には，対話や助言等を通して明らかにさせる。 【関・意・態】 自分の発表したい内容を考えて文章の構想を立てることができたか。 発表，つぶやき，対話，ワークシートの内容</li> </ul>
展開 33分	<p>2 「図書データシート(作品用シート)」に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>あらすじ</u></li> <li>・ <u>おすすめポイント</u></li> <li>・ <u>賢治と作品とのかかわり</u></li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は，まず「あらすじ」の入力を優先して取り組ませる。 手がきの文章や絵等を載せたいと考えた児童には，スキャナで原稿を読み取り，「図書データシート(作品用)」に貼り付けることができるよう支援する。</li> <li>・ 賢治の年表や地図，写真，イラスト等も必要に応じて効果的に使わせる。 &lt; <u>読書内容を振り返り，本の内容や筆者の考え，意図等について整理したり，捉えたりしたことをかき表す活動の効率化を図る。</u> <u>PCを活用した資料作成</u>&gt; &lt; <u>相手を意識して分かりやすく伝える力を育成する。</u> <u>PCを活用した資料作成と発表練習</u>&gt; 【書くこと】 自分の思ったことや調べたことを，伝える相手のことを意識して「データシート(作品用)」にまとめることができたか。 「データシート(作品用)」の内容</li> </ul>
終末 5分	<p>3 次時の学習活動を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「データシート(作品用)」を完成させ，互いに見合い，助言し合うことを話す。</li> </ul>

5 「図書サイト(データベース)」全体構想



教材(「図書サイト(データベース)」)

詳細部分及び不足箇所については、今後、追加・修正を加えていく。

「TOP」



「データベース」



・ 「お知らせ・おすすめコーナー」



・ 「委員会コーナー」



・ 「新しい本の紹介」



・ 「みんなの作品(学習に使った『本の紹介』資料, 絵, クイズ, 紙芝居...等)」



・ 「『図書データシート』各種様式」

